

言葉の意味

中 一

私たちは常に、言葉と向き合いながら生活をしていきます。言葉がなければ、気持ちを伝えることも、思いを伝えることもできません。しかし、今の時代だからこそ、言葉の意味について考えてみる必要があると思います。

みなさんもきっと、一度は目にしたことがある「自殺」についてのニュース。私は、四年生までは、誰かが自ら命を絶ってしまうということに対して、「どうしてそんなことするのだろう。」「なぜ相談できず、一人で抱え込んでしまったのだろう。」「家族や友達が悲しむのに。」などと思っていました。でも、ある日を境に私の考えは大きく変化しました。

それは友達との関係があまりうまくいっていなかった五年生のときでした。まだまだこれから楽しいことがたくさんあるという時期でしたが、時々、仲間外れにされることがあります。私以外の子が集まり、話していることが多々あったの

です。でも自分から理由を聞くことができず、そのときは、どうすることもできませんでした。私はそれからしばらくの間、一人でそのことを抱え込むようになりました。そのときに頭に浮かんでいたのは、数日前に見た自殺のニュースでした。

「死にたい。」とまでは思いませんでした。けれども、私は恐怖でいっぱいでした。今までは、私は生きることしか考えていませんでした。「死」とは関係のない世界で生活していたからです。でも、そのときになって初めて自ら命を絶ったあの子の気持ちも分からなくなってしまう気がしました。こんな気持ちは初めてで怖くてどうしようもありませんでした。

でもそんなとき、私を「生」の道へ連れて行ってくれたのは、以前少し気まずい雰囲気になってしまった友達でした。今では、笑い合い、はしゃぎ合い、心から笑顔になれる友達です。その友達に、私が一人で抱え込んでいた悩みをうち明けました。どうしようもなく苦しい気持ちを伝えると、みんな同じ悩みをもっていたことが分かりました。どうしたらよいか分からず、いつか壊れてしまうのではと思って怖かったこと。本当はみんなが

心の中で思っていたこと。それらが友達に伝わったとき、私は本当に嬉しかったことを覚えていません。

そして私はもう一つ、気付いたことがあります。私は、まだ五年生という時期に、改めて「生」と「死」に対して向き合えたことに感謝しています。今までは分からなかった気持ちを知ることができたからです。もしも、これからの人生の中で、私よりももっと深く暗く、悩み苦しみ、嘆いている人がいたら、きっとその人が本当に欲しい言葉をかけられるかもしれません。きっと今までの私なら「死」と戦う人に対して、「そんなこと言っちゃダメだよ。」「何でそんなこと言うの。」など、無責任な言葉をかけていたと思います。でも、その気持ちを持ち越えた今だからこそ、相手の気持ちを考え、共に悩み、少しでも気持ちが晴れ晴れするような優しい言葉をかけられる人になりたいです。あの日、自ら命を絶ったあの子のような人を一人でも多く救いたい、私は身近なところから少しずつ、心温まる「言葉」で励まし続けていきます。